

令和 6 年度（対象年度：令和 5 年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	短期大学部・幼児教育科
責任者（又は記入者）	大塚 健樹

基準領域 1	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み
--------	------------------------------

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記しますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

＜前年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
1	本学の目指す教師像について、これまでの実績と時代に求められている内容の整合性を図っていくことが課題である。
2	本学の目指すべき教師像についてこれまでの実績と時代に求められている教師像の整合性を図り、教員間で共有を常に図ることが課題である。
3	アセスメンターの導入が間もないことから、各教員が十分に活用できている状況とは言えないため、今後もアセスメンターの利用に関する F D や勉強会を通して、十分な活用に取り組むこととしている。
4	教職課程の教員配置について短期大学部の人事委員会や教職課程委員会が連動していないため、教員養成サポートセンター委員会との協働体制をとることが課題である。
5	各学科と全学組織の見地、全学的意思の統一をはかる難しさがある。学部ごとに問題の質は異なり、短期大学部が直面する教職課程の課題は、従前の短期大学の統括組織（教務委員会や人事委員会）が包括的に取り扱うことが多い。
6	設備管理・運用の組織的配置が求められる。
7	授業評価アンケートの担当部署から、結果提供を受けられるしくみをつくる必要がある。その上で、教職課程についての F D ・ S D の取り組みにつなげることが必要である。
8	数値的な公表については年度更新を行っているが、全体的な情報について評価を受ける機会はこれまでなく、総括的な公表の方針に統一性をもたせることが課題である。
9	4 年間での教員養成と 2 年間での教員養成では、取り組むべき課題の共通性もあるが、教育実習を行うための要件である取得すべき単位数の考え方などに違いもある。その違いについての相互理解にまだ課題を残している。

＜前年度の評価結果（課題事項）＞

課題事項＜箇条書き＞ * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。

なし

＜【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項＞

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。
このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	短期大学部・幼児教育科
責任者（又は記入者）	大塚 健樹

基準領域 1	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み
--------	------------------------------

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

Ⅳ： 基準に十分に適合している

Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。

Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。

Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
1	教職課程教育の目的・目標を共有	① 教職課程の目的・目標を「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。	Ⅲ
2		② 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。	Ⅲ
3		③ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。	Ⅲ
4	教職課程に関する組織的工夫	① 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。	Ⅲ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
5	教職課程に関する組織的工夫	② 教職課程の運営に関して全学組織(教員養成サポートセンター等)と学部(学科)の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。	Ⅲ
6		③ 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関して可能となっている。	Ⅲ
7		④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等)やSD(教職員の能力開発)の取り組みを展開している。	Ⅲ
8		⑤ 教員養成の状況についての情報公表を行っている。	Ⅲ
9		⑥ 全学組織(教員養成サポートセンター)と学部(学科)教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて機能しつつある。	Ⅲ

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
課題事項<箇条書き> * 伸長すべき点、改善すべき点	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み ＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	

令和 6 年度（対象年度：令和 5 年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	短期大学部・幼児教育科
責任者（又は記入者）	大塚 健樹

基準領域 2	学生の確保・育成・キャリア支援
--------	-----------------

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記していますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

＜前年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
10	新入生オリエンテーションの教職課程ガイダンスの際に、「意向調査」を行うなどして早めに全体の希望を把握し、指導に結びつけることはできないか。
11	免許種や学科の特性を踏まえた「教師像」を担保するものであるか基準の評価の機会を定期的にもちたい。
12	履修要件に照らして課程を運用しているが、適切な規模の履修学生となっているか、基準をもちたい。
13	「履修カルテ」により、学生は自らの教職への道りを自己点検・評価することができるが、評価の基準であるその項目の内容の見直しや教員のフィードバックのタイミングについて検討が必要である。
14	特筆すべき事項なし。
15	免許種に拠らず、就職先としての幼稚園、認定こども園などへの総括的なアプローチを協議できる場がほしい。
16	教職を目指しているが、同時に「幼稚園」「認定こども園」「保育所」への就職を目指している実態があり、免許種を超えた情報提供のあり方にならざるを得ない。また、適切な情報提供であるか、はかる基準についての議論もこれからである。
17	個々の適性に適った就職指導、法令等の理解を深めカリキュラム上の工夫を検討したい。
18	免許種や就職先をしぼった、幼児教育科学生が参加しやすい、セミナーの企画を検討したい。 現職の幼稚園教諭（卒業生）と学生が直接交流できる機会を増やし、教員をめざす後輩たちの意識向上に役立てることができるように今後も継続した試みをもちたい。

＜前年度の評価結果（課題事項）＞

課題事項＜箇条書き＞ * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし

＜【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項＞

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。
このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	短期大学部・幼児教育科
責任者（又は記入者）	大塚 健樹

基準領域 2	学生の確保・育成・キャリア支援
--------	-----------------

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

Ⅳ： 基準に十分に適合している

Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。

Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。

Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
10	教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成	① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。	Ⅲ
11		② 「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始、継続するための基準を設定している。	Ⅲ
12		③ 「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。	Ⅲ
13		④ 「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。	Ⅲ
14	教職へのキャリア支援	① 学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。	Ⅲ
15		② 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。	Ⅲ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
16	教職へのキャリア支援	③ 教職に就くための各種情報を適切に提供している。	Ⅲ
17		④ 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。	Ⅲ
18		⑤ キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。	Ⅲ

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
課題事項<箇条書き> * 伸長すべき点、改善すべき点	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み ＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	

令和 6 年度（対象年度：令和 5 年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	短期大学部・幼児教育科
責任者（又は記入者）	大塚 健樹

基準領域 3	適切な教育課程カリキュラム
--------	---------------

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記しますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
19	特筆すべき事項なし。
20	特筆すべき事項なし。
21	特筆すべき事項なし。
22	特筆すべき事項なし。
23	常に進化する情報機器の更新と使用法の取得が課題である。
24	特筆すべき事項なし。
25	特筆すべき事項なし。
26	達成度自己評価システムと「履修カルテ」を連動させるシステムを用いて、より効果的な指導法の開発に努めることが課題である。
27	特筆すべき事項なし。
28	様々な体験活動に関する振り返りの機会を設定することが課題である。
29	特筆すべき事項なし。
30	連携する自治体を増やし、幼児教育の現状を知る機会を設けていく。
31	「教育実習連絡協議部会」はコロナ禍により実績があげられていない。 教員養成サポートセンターが、幼稚園実習の「協力園」との調整事務を包括的に行うことが目標である。

〈前年度の評価結果（課題事項）〉

課題事項〈箇条書き〉 * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。

なし

〈【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項〉

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。
このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	短期大学部・幼児教育科
責任者（又は記入者）	大塚 健樹

基準領域 3	適切な教育課程カリキュラム
--------	---------------

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

- Ⅳ： 基準に十分に適合している
Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。
Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。
Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
19	教職課程カリキュラムの編成・実施	① 教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。	Ⅲ
20		② 学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。	Ⅲ
21		③ 教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。	Ⅲ
22		④ 今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。	Ⅲ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
23	教職課程カリキュラムの 編成・実施	⑤ アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。	Ⅲ
24		⑥ 教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。	Ⅲ
25		⑦ 教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。	Ⅲ
26		⑧ 「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。	Ⅲ
27	実践的指導力育成と地域 との連携	① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。	Ⅲ
28		② 様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。	Ⅲ
29		③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。	Ⅲ
30		④ 大学ないし教員養成サポートセンター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。	Ⅲ
31		⑤ 教員養成サポートセンター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。	Ⅲ

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
課題事項<箇条書き> * 伸長すべき点、改善すべき点	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み ＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	